

令和6年度（3学年用）

教科 地歴

科目 世界史探究

教 科： 地歴

科 目： 世界史探究

単位数： 3 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 6 組

教科担当者：（1組：川副 ） （2組：川副 ） （3組：三上 ） （4組：三上 ） （5組：川副 ） （6組：川副 ）

使用教科書：（ 世界史探究 高校世界史（山川出版） ）

教科 地歴

の目標：

【知 識 ・ 技 能】 諸地域の歴史的特質の形成、諸地域の交流・再編、諸地域の結合・変容、地球世界の課題について、自ら情報を調べまとめる技能を身につける。

【思考力・判断力・表現力】 諸事象を多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握・考察・構想したことを説明したり、議論する力を身につける。

【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の歴史的特質に理解を深め、近現代の歴史については、課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。また、他国や自国の文化を尊重することの大切さを深める。

科目 世界史探究

の目標：

【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体的に学習に取り組む態度】
諸地域の歴史的特質の形成、諸地域の交流・再編、諸地域の結合・変容、地球世界の課題について、自ら情報を調べまとめる技能を身につける。	諸事象を多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握・考察・構想したことを説明したり、議論する力を身につける。	諸地域の歴史的特質に理解を深め、近現代の歴史については、課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。また、他国や自国の文化を尊重することの大切さを深める。

	単元	指導項目・内容	知	思	主	配当 時数
1 学 期	文明の成立と古代文明の特質 中央ユーラシアと東アジア世界	・世界各地で、自然環境に基づいて多様な古代文明が成立し、そのもとでは王などの権力者を中心とする社会や文化も形成された。古代文明において、王は人々にとってどのような存在であったのかを考察する。 ・中央ユーラシアでは遊牧国家が興亡を繰り返し、東アジアでは秦が中国を統一したが、短期間で崩壊した。これらの地域の国家や社会は、どのような人々によって成り立ち、変化していったのかを考察する。	○	○	○	18
	定期考査		○	○		1
	南アジア世界と東南アジア世界の展開 西アジアと地中海周辺の国家形成 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	・南アジアでは、仏教やヒンドゥー教などの宗教が成立した。宗教の多様な展開は、南アジアと東南アジアにおける文化や思想にどのような影響を与えたのかを考察する。 ・西アジアや地中海周辺の地域において、イラン人やギリシア人、ローマ人はお互いに興亡を繰り返した。彼らの興亡によって、どのような社会や文化が形成されたのかを考察する。 ・ローマ帝国の分裂によって混乱した地中海世界に、キリスト教とイスラーム教が広がった。こうした宗教に基づいて、どのような国家・社会が形成されたのかを考察する。	○	○	○	18
	定期考査		○	○		1
2 学 期	イスラーム教の伝播と西アジアの動向 ヨーロッパ世界の変容と展開 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 大交易・大交流の時代 アジアの諸帝国の繁栄 近世ヨーロッパ世界の動向 産業革命と環大西洋革命	・7世紀のアラビア半島に誕生したイスラーム教は、その後世界各地に広まっていった。イスラーム教が広まった地域と、どのような方法で広まったかについて考察する。 ・5世紀に西ローマ帝国が滅亡すると、ヨーロッパには様々な民族が侵入した。そうした混乱期に、東西ヨーロッパでは、どのような政治的・宗教的な変化が起こったのかを考察する。 ・東アジアに広く影響を及ぼした唐が滅亡すると、10～13世紀にかけてアジア各地で様々な政治的変動が起こった。どのような政権が成立したか、その特徴を考察する。 ・15世紀末、ヨーロッパ勢力が海外進出を開始し、交易網が整備されていった。彼らは何を求めて海外進出をおこない、それはどのような影響を与えたのかを考察する。 ・16世紀の西アジア・南アジア・東アジアには、それぞれ広大な領土を統治する帝国が繁栄していた。それらはどのような帝国で、どのように国内を統治していたのかを考察する。 ・近世に入ると、古代・中世を通じてはぐくまれた伝統が崩れ、現在につながる新しい動きが起こってきた。どのような点がことになっていたのかを政治面・経済面・宗教面など様々な視点から考察する。 ・18世紀後半から19世紀前半にかけて、ヨーロッパと南北アメリカ大陸の大西洋沿岸部で、社会変動が連続して起こった。変革はどのように起こり、また相互に関連していったのかを考察する。	○	○	○	25
	定期考査		○	○		1
	イギリスの優位と欧米国民国家の形成 アジア諸地域の動揺 帝国主義とアジアの民族運動 第一次世界大戦と社会の変容 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	・欧米諸国の国民国家形成はどのように進んだのかを考察する。また、近代化に自信を持った欧米諸国はアジア・アフリカ地域にどのような姿勢で臨んだのかについて考察する。 ・19世紀に入り、本格化するヨーロッパ諸国の干渉や植民地政策に対し、オスマン帝国や南アジア・東南アジアの諸国、そして清朝はどのように立ち向かおうとしたのかについて考察する。 ・欧米列強は植民地獲得や勢力圏の拡大をめぐり激しく争うようになった。列強はなぜこのような帝国主義政策をとったのかを考察する。 ・第一次世界大戦とロシア革命はどのような経緯で起こったのかを考察する。また、その後の各国の社会、国際秩序にどのような影響を及ぼしたのかを考察する。 ・第二次世界大戦はどのようにして全世界に広がったのかを考察する。また、新たな独立国も加わった戦後世界には、どのような国際秩序が形成されたのかを考察する。	○	○	○	24
	定期考査		○	○		1
3 学 期	冷戦と第三世界の台頭 冷戦の終結と今日の課題	・冷戦は世界に広がり、東西両陣営の対立は激しさを増していった。そうしたなか、第三世界の登場や西側・東側両陣営内に生じた対立は、れいせんにどのような影響及ぼしたのかについて考察する。 ・1989年、マルタ会談で東西冷戦の終結が宣言されたが、期待された平和は実現しなかった。今日の世界が直面する諸問題に、私たちはどのように立ち向かっていくべきかを考察する。	○	○	○	15
	定期考査		○	○		1

令和6年度（3学年用）

教科 地理歴史

科目 日本史特講

教科： 地理歴史 科目： 日本史特講

単位数： 4 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 6 組

教科担当者：（1 組～6 組：志村）

使用教科書：（日本史探究（東京書籍））

教科 地理歴史 の目標：

【知識・技能】我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力・判断力・表現力】歴史的事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、相互の関連などに着目して、概念などを活用して考察したり、課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察したことを説明・議論する力を養う。

【主体的に学習に取り組む態度】諸事象について、課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 日本史特講 の目標：

【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体的に学習に取り組む態度】
知識：諸事象の因果関係や、世界と日本を広い視野で捉え、近現代の歴史を理解する。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切にまとめる技能を身につける。	諸事象の意味や歴史的意義、特色などを、比較・推移・相互の関連等に着目しながら考察し、課題について考察する力を身につける。	諸事象についての課題を主体的に追求・解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察を通して、他国や自国の文化を尊重することの大切さを深める。

	単元	指導項目・内容	知	思	主	配当 時数
1 学 期	先史社会の生活と文化	・旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べとめ、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、先史社会の特色を理解する。	○	○	○	9
	律令国家の形成と古代文化の展開	・国家の形成と古墳文化、律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べとめ、先史から古代の政治・社会や文化の特色を理解する。	○	○	○	10
	摂関政治と貴族文化	・貴族政治の展開、平安期の文化、地方支配の変化や武士の出現などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べとめ、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解する。	○	○	○	10
	中世社会の成立	・貴族政治の変容と武士の社会進出、土地支配の変容などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べとめ、古代から中世への時代の転換を理解する。	○	○	○	10
	武家政権の成立と朝廷	・武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べとめ、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解する。	○	○	○	10
	武家支配の広がりや国際交流	・武家政権の変容、日明貿易の展開と琉球王国の成立、村落や都市の自立、多様な文化の形成や融合などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べとめ、地域権力の成長、社会の変容と文化の特色を理解する。	○	○	○	10
	定期考査		○	○		1
2 学 期	・日露戦争と帝国日本 ・日露戦争後の社会と政治	・日露戦争は、日本の国際的な地位をどのように変化させ、どのように国際関係が変化したのかを理解する。 ・日露戦争後の日本で、民衆の不満が高まった背景や原因、戦争が及ぼした影響などに着目して考察する。	○	○	○	12
	・両大戦間期の日本	・産業の発達の背景や影響、地域社会における労働や生活の変化、戦争が及ぼした影響について理解する。	○	○	○	12
	・都市化・重工業化と生活の変化 ・政党政治とデモクラシー ・国際社会のなかの日本	・大正期の産業や文化にはどのようなものがあつたか理解し、産業の発達の背景や影響について考察する。 ・選挙権の拡大が起こった背景やその意義について考察し、地域社会における労働や生活の変化などを理解する。 ・第一次世界大戦中と戦後に日本はどのような国際関係を築いたのかを考察し、その結果を理解する。	○	○	○	12
	・第二次世界大戦と日本	・恐慌と国際関係、軍部の台頭と対外政策、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べとめ、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解する。	○	○	○	12
	・昭和恐慌と立憲政治の動揺 ・中国侵略と戦時体制への移行	・昭和初期の政治にはどのような特徴があつたののかについて、政治・経済体制の変化に着目しながら考察する。 ・日本が中国での戦争を拡大し、その結果どのような影響を社会に与えたのかについて、国際社会やアジア近隣諸国との関係について考察する。	○	○	○	11
	定期考査		○	○		1
3 学 期	過去問演習	過去の大学入試問題に取り組み、実践力を高める。	○	○	○	20

令和6年度（3学年用）

教科：地歴

科目：日本史教養

教科：地歴

科目：日本史教養

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～6組

教科担当者：（1組～6組：小川・加藤）

使用教科書：（日本史探究（東京書籍））

教科 地歴 の目標：

【知識・技能】	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
【思考力・判断力・表現力】	歴史的事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、相互の関連などに着目して、概念などを活用して考察したり、課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察したことを説明・議論する力を養う。
【主体的に学習に取り組む態度】	諸事象について、課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 日本史教養 の目標：

【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体的に学習に取り組む態度】
知識：諸事象の因果関係や、世界と日本を広い視野で捉え、近現代の歴史を理解する。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切にまとめる技能を身に付ける。	諸事象の意味や歴史的意義、特色などを、比較・推移・相互の関連等に着目しながら考察し、課題について考察する力を身につける。	諸事象についての課題を主体的に追求・解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察を通して、他国や自国の文化を尊重することの大切さを深める。

	単元	指導項目・内容	知	思	主	配当 時数
1 学 期	・日露戦争と帝国日本 ・日露戦争後の社会と政治	・日露戦争は、日本の国際的な地位をどのように変化させ、どのように国際関係が変化したのかを理解する。 ・日露戦争後の日本で、民衆の不満が高まった背景や原因、戦争が及ぼした影響などに着目して考察する。	○	○	○	3
	・両大戦間期の日本	・産業の発達の背景と影響、地域社会における労働や生活の変化、戦争が及ぼした影響について理解する。	○	○	○	3
	・都市化・重工業化と生活の変化 ・政党政治とデモクラシー ・国際社会のなかの日本	・大正期の産業や文化にはどのようなものがあったか理解し、産業の発達の背景や影響について考察する。 ・選挙権の拡大が起こった背景やその意義について考察し、地域社会における労働や生活の変化などを理解する。 ・第一次世界大戦中と戦後に日本はどのような国際関係を築いたのかを考察し、その結果を理解する。	○	○	○	5
	・第二次世界大戦と日本	・恐慌と国際関係、軍部の台頭と対外政策、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解する。	○	○	○	4
	・昭和恐慌と立憲政治の動揺 ・中国侵略と戦時体制への移行	・昭和初期の政治にはどのような特徴があったのかについて、政治・経済体制の変化に着目しながら考察する。 ・日本が中国での戦争を拡大し、その結果どのような影響を社会に与えたのかについて、国際社会やアジア近隣諸国との関係について考察する。	○	○	○	5
	定期考査		○	○		1
2 学 期	・戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開	・第二次世界大戦が日本国民や世界の人々にあたえた影響や、これまでの戦争と異なっていた点を考察し、戦争の推移と国民生活への影響について理解する。	○	○	○	5
	・占領と改革	・占領政策と諸改革、日本国憲法の成立、戦後の経済復興など、我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係について理解する。	○	○	○	5
	・占領と日本国憲法の成立 ・冷戦の開始と経済復興	・戦後、政治や経済、社会などの各分野でどのような改革が進められたのかについて理解する。 ・国際情勢の変化は、日本の政治や経済、社会にどのような影響をおよぼしたのか、第二次世界大戦前後の政治や社会の類似と相違について考察する。	○	○	○	5
	・国際社会への復帰と高度経済成長	・平和条約と独立の回復、高度経済成長など、我が国の再出発後の政治・経済や対外関係を理解する。	○	○	○	5
	・国際社会への復帰と対米協調	・高度経済成長は社会にどのような影響を与えたのか、また冷戦の影響、国民の生活や地域社会の変化などについて考察する。	○	○	○	4
	1年間の復習	興味のある「歴史的事象・人物」について調べ発表する。	○	○	○	14
	定期考査		○	○		1
3 学 期	1年間の復習	興味のある「歴史的事象・人物」について調べ発表する。	○	○	○	10

令和6年度（3学年用）

教科 社会科

科目 地理教養

教科：社会科

科目：地理教養

単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 1組～6組

教科担当者：（1組：渡辺浩章）（2組：渡辺浩章）（3組：渡辺浩章）（4組：渡辺浩章）（5組：渡辺浩章）（6組：渡辺浩章）

使用教科書：（高等学校 新知路総合（帝国書院）・新詳高等地図（帝国書院））

教科 社会科

の目標：

【知識・技能】世界の生活文化の多様性や防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を知る。

【思考力・判断力・表現力】地理に関わる事象の特色や相互の関連を、位置や分布、自然環境、地域などに着目して多面的・多角的に考察したり、考察したことを効果的に説明したりする力を養う。

【主体的に学習に取り組む態度】地理に関わる諸事象について、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについて理解を深める。

科目 地理教養

の目標：

【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体的に学習に取り組む態度】
世界の生活文化の多様性や防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を知る。	地理に関わる事象の特色や相互の関連を、位置や分布、自然環境、地域などに着目して多面的・多角的に考察したり、考察したことを効果的に説明したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについて理解を深める。

	単元	指導項目・内容	知	思	主	配 当 時 数
1 学 期	グローバル化する世界	・世界を結ぶ航空交通の発達、貿易を支える海上交通の発達、陸上交通の発達と変化について理解し、多面的・多角的に考察し、表現している。また、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ・通信技術の発達と一体化する世界、情報通信技術の発達で変化する生活行動、情報通信技術が生み出す格差について理解し、多面的・多角的に考察し、表現している。また、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ・観光のグローバル化、多様化する観光のスタイルについて理解し、多面的・多角的に考察し、表現している。また、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○	12
	自然環境と防災	・我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。 ・地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。				6
	歴史的背景と人々の生活	・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 ・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	○	○	○	12
	世界の産業と人々の生活	・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 ・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	○	○	○	4
	定期考査		○	○		1
2 学 期	地球的課題と国際協力	・世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解する。 ・世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	○	○	○	31
	定期考査		○	○		1
	1年間の復習		○	○	○	4

3 学 期						

令和6年度（3学年用）

教科 社会科

科目 地理教養

教科：社会科

科目：地理教養

単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 1組～6組

教科担当者：（1組：川副聡）（2組：川副聡）（3組：川副聡）（4組：川副聡）（5組：川副聡）（6組：川副聡）

使用教科書：（高等学校 新知路総合（帝国書院）・新詳高等地図（帝国書院））

教科 社会科

の目標：

【知識・技能】世界の生活文化の多様性や防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を知る。

【思考力・判断力・表現力】地理に関わる事象の特色や相互の関連を、位置や分布、自然環境、地域などに着目して多面的・多角的に考察したり、考察したことを効果的に説明したりする力を養う。

【主体的に学習に取り組む態度】地理に関わる諸事象について、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについて理解を深める。

科目 地理教養

の目標：

【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体的に学習に取り組む態度】
世界の生活文化の多様性や防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を知る。	地理に関わる事象の特色や相互の関連を、位置や分布、自然環境、地域などに着目して多面的・多角的に考察したり、考察したことを効果的に説明したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについて理解を深める。

	単元	指導項目・内容	知	思	主	配当 時数
1 学 期	グローバル化する世界	・世界を結ぶ航空交通の発達、貿易を支える海上交通の発達、陸上交通の発達と変化について理解し、多面的・多角的に考察し、表現している。また、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ・通信技術の発達と一体化化する世界、情報通信技術の発達で変化する生活行動、情報通信技術が生み出す格差について理解し、多面的・多角的に考察し、表現している。また、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ・観光のグローバル化、多様化する観光のスタイルについて理解し、多面的・多角的に考察し、表現している。また、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○	12
	自然環境と防災	・我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。 ・地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。				6
	歴史的背景と人々の生活	・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 ・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	○	○	○	12
	世界の産業と人々の生活	・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 ・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	○	○	○	4
	定期考査		○	○		2
2 学 期	地球的課題と国際協力	・世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解する。 ・世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	○	○	○	22
	定期考査		○	○		2
	1年間の復習	興味のある「世界遺産」について調べ発表する。	○	○	○	6
3 学 期	1年間の復習	興味のある「世界遺産」について調べ発表する。	○	○	○	4